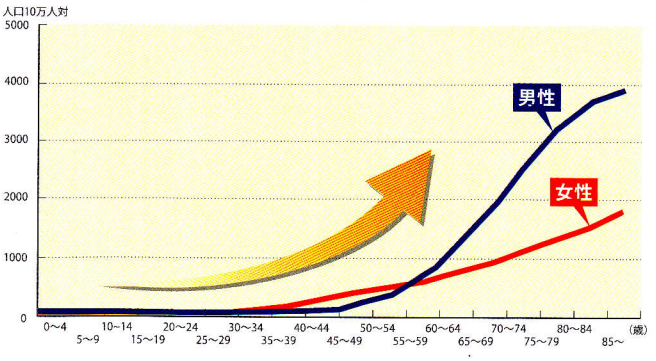
がん

日本人が生涯でがんにかかる確率は2人に1人!!

日本の3大死亡要因の1つである「がん」。国立がん研究センターがん対策情報センターのデータでは、生涯でがんに罹患する人の確率は、男性62%女性47%（およそ2人に1人）と出ており、非常に多くの方ががんに罹っていることがわかっています。右図で示す通り、男女ともに40代でがん罹患率が上がりはじめ、50代～60代と年齢が上がるにつれさらに右肩上がりに増えていきます。

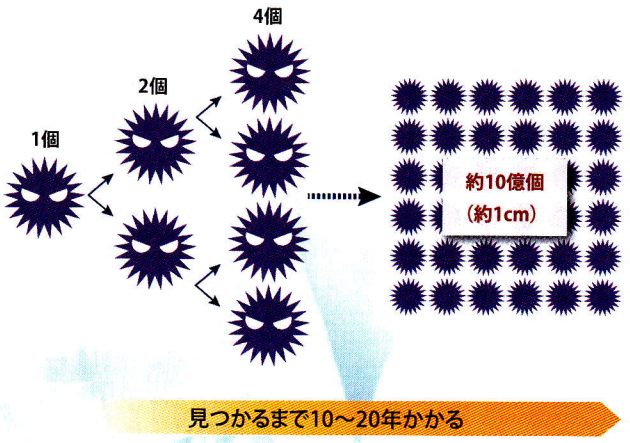
●年齢階級別罹患率（全部位2014年）



（引用元: 国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」）

1日約5,000個のがん細胞が誕生

私たちヒトの体は、約60兆個もの細胞から出来ています。そのうちの約1%が毎日新しく入れ替わり、約6,000億個の細胞が死んで、新たに約6,000億個の細胞が細胞分裂により誕生しています。細胞分裂の際に、細胞の設計図にあたるDNAを毎日約6,000億回コピーしていますが、私たちの体はDNAのコピーを失敗することがあり、がん細胞はコピーミスによって生み出されます。多くの場合、コピーミスを起こした細胞は死んでしまいますが、あるDNAにコピーミスが生じると、細胞は死ぬことが出来なくなり際限なく分裂を繰り返すようになります。死なない細胞（がん細胞）の誕生です。コピーミスによって、毎日約5,000個ものがん細胞が生み出されていると言われています。



がんは見つかるまでに10年から20年

生き残ったがん細胞は細胞分裂を繰り返し、1個が2個、2個が4個、4個が8個と倍々ゲームのように増えていきます。初期に画像診断などで発見可能ながん（約1cm）の細胞数は約10億個といわれています。1個から10億個までがん細胞が増えるのに10～20年ほどかかります。つまり、今、発見されたがんの元になるがん細胞は10～20年前に生まれていたことになり、今現在、私たちの体中で10年後、20年後にがんとして発見される細胞が生まれ育っているかもしれないといえます。